

かゑらじと かねて思へハ 梓弓
なき数に入る 名をぞとどむる
四條畷に散った若き武将、楠正行

楠正行通信 第14号

平成27年7月9日

発行＝四條畷楠正行の会

〒575-0021 四條畷市南野5丁目2番16号

四條畷市立教育文化センター内 072-878-0020

はじめての別格官幣社、湊川神社

元禄5年、徳川光圀が墓碑「嗚呼忠臣楠子之墓」建立

6月9日、私たちの会発足以来、初めての現地学習を行い、楠正行の父、楠木正成を祀る湊川神社を訪れた。

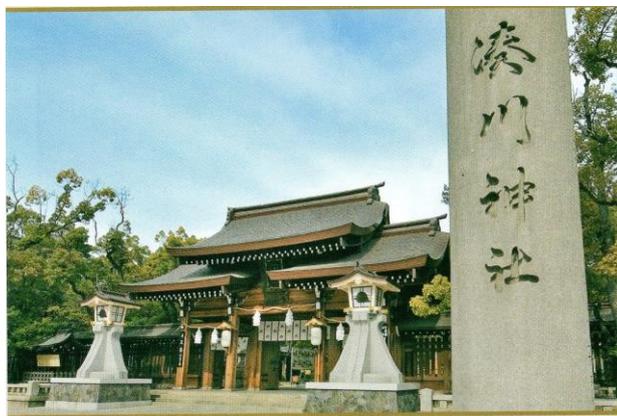
この日、宝物殿主任専門員・学芸員の岡村光弘権禰宜の出迎えを受け、社殿でそろって正式参拝の上、宝物殿、大楠公御墓所、大楠公殉節地等を見学させていただき、詳細な説明を受けた。

今回は、湊川神社の略記、宝物殿リーフレットに基づき湊川神社を紹介する。

文禄年間、御墓所は豊臣秀吉検地の際、免租地とされ、江戸時代、摂津尼崎藩主青山幸利によって松と梅が植えられ、五輪の石塔が建てられた。

元禄5年(1692)、徳川光圀によって大楠公墓碑「嗚呼忠臣楠子之墓」が建立され、大楠公のご盛徳が天下に顕彰されることとなった。

明治元年(1868)4月、明治天皇は神社創祀をご沙汰され、明治5年(1872)5月24日、社名を『湊川神社』とし、初めての別格官幣社に列せられ、同日鎮座際、翌25日楠公祭が斎行され、ここに湊川神社が創建された。



- ◆所在 神戸市中央区多聞通3丁目1番1号
- ◆主神 楠木正成
- ◆配祀 楠正行、楠木正季、菊池武吉他

5月25日、楠公祭・本祭を開催

由緒

大楠公は、桜井の駅で正行に後事を託して、兵庫湊川で足利尊氏・直義を迎撃、激戦の末、衆寡敵せず、延元元年(1336)5月25日、弟正季ら一族の人々と殉節を遂げられた。

以来、地元では大楠公の塚を大切に守ってきた。

社殿

現在の社殿は、戦災によって焼失したものを、昭和27年に復興新築したもので、権現造り風の鉄筋コンクリート造。



拝殿天井画

拝殿天井の絵の内、中央の「大青龍」は福田眉仙の作、その右4枚の版画「運命」は棟方志功の作。拝殿両側の獅子、狛犬の壁画も棟方志功の傑作で、「降魔・伏邪」の賛は徳富蘇峰の筆である。

殉節地

延元元年（1336）5月25日、大楠公が殉節された場所と伝わる地が、神社境内西北の隅に位置する。（国指定文化財史蹟）

御墓所

元禄5年（1692）、徳川光圀直筆の「嗚呼忠臣楠子之墓」の文字を書き、裏面には、明の遺臣朱舜水作の正成賛文を、岡村元春に書かせて、刻ませた。



大楠公御墓所（嗚呼忠臣楠子之墓）

この墓碑の建立によって、大楠公の盛徳が宣揚され、明治維新への力強い精神的指導力となった。幕末から維新にかけ、頼山陽、吉田松陰、真木保臣、三条実美、坂本竜馬、高杉晋作、西郷隆盛、大久保利通、木戸孝允、伊藤博文らが訪れている。

宝物殿

昭和38年の竣工で、白亜二階建ての清楚な鉄筋コンクリート造。

主な宝物は以下の通り。

※横山大観筆「大楠公像」

昭和10年、大楠公600年祭に奉納された横山大観画伯畢生の力作。

※前田青邨筆「大楠公」

昭和20年、青邨60歳の時の作品で、歴史画を得意とする彼の代表作。

※富岡鉄斎筆「楠公父子」

富岡鉄斎は、短い期間であるが、



●「大楠公像」（横山大観画）



「大楠公御像」前田青邨筆

湊川神社の神職として在籍した。

※棟方志功筆「御楠樹（おんくすのき）の図」

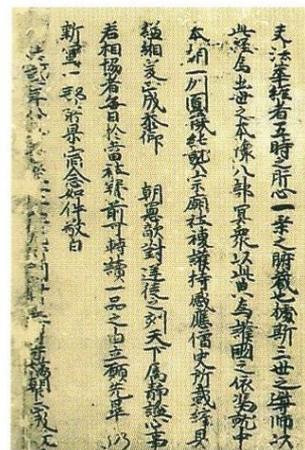
棟方志功は、幾度となく湊川神社を訪れ、様々な作品を奉納している。

※大楠公御真筆「法華経奥書」（重要文化財）

現在残る大楠公の真筆中、楷書としては唯一のもの。

※段威（だんおどし）腹巻（重要文化財）

大楠公御着用と伝わる。明治34年、国宝。昭和25年、重要文化財に指定。



ほけきょうのおくがき

法華経奥書（重要文化財）



だんおどしのはらまき

段威腹巻（重要文化財）

殉節の地には、摂津尼崎藩主青山幸利によって松と梅の木が植えられたが、地元では、室町幕府に氣遣って「埋める」を「梅」に掛けたのではないかと、との逸話が残っている。

写真はすべて略記・宝物殿リーフレットより転載

（文責「四條畷楠正行の会」代表 扇谷昭）